

上越市 まちづくり市民意見交換会 資料

- 1 まちの変化 ～人口・世帯構成の変化～
- 2 暮らしの実感 ～市民の声アンケート報告～
- 3 まちの現状と課題
- 4 第6次総合計画の見直し ～後期基本計画の策定～

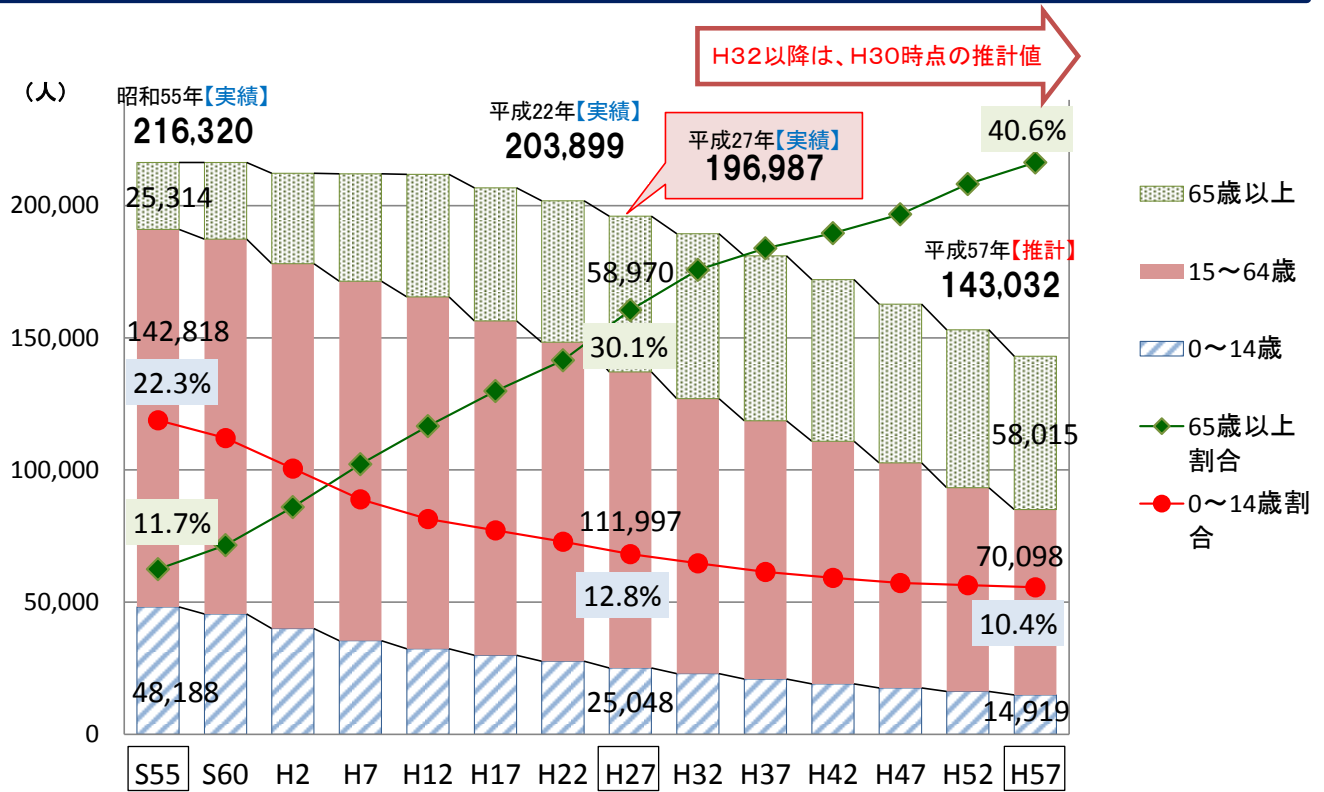


平成 30 年 7 月 上越市企画政策課

1 まちの変化 ～人口・世帯構成の変化～

(1) 人口

① 総人口の推移と将来推計人口（S55～H57）



出典 総務省「国勢調査」及び国立社会保障人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成30年3月推計)により作成
 ※平成12年以前の数値は、現在の市域に合わせて組み替えたもの

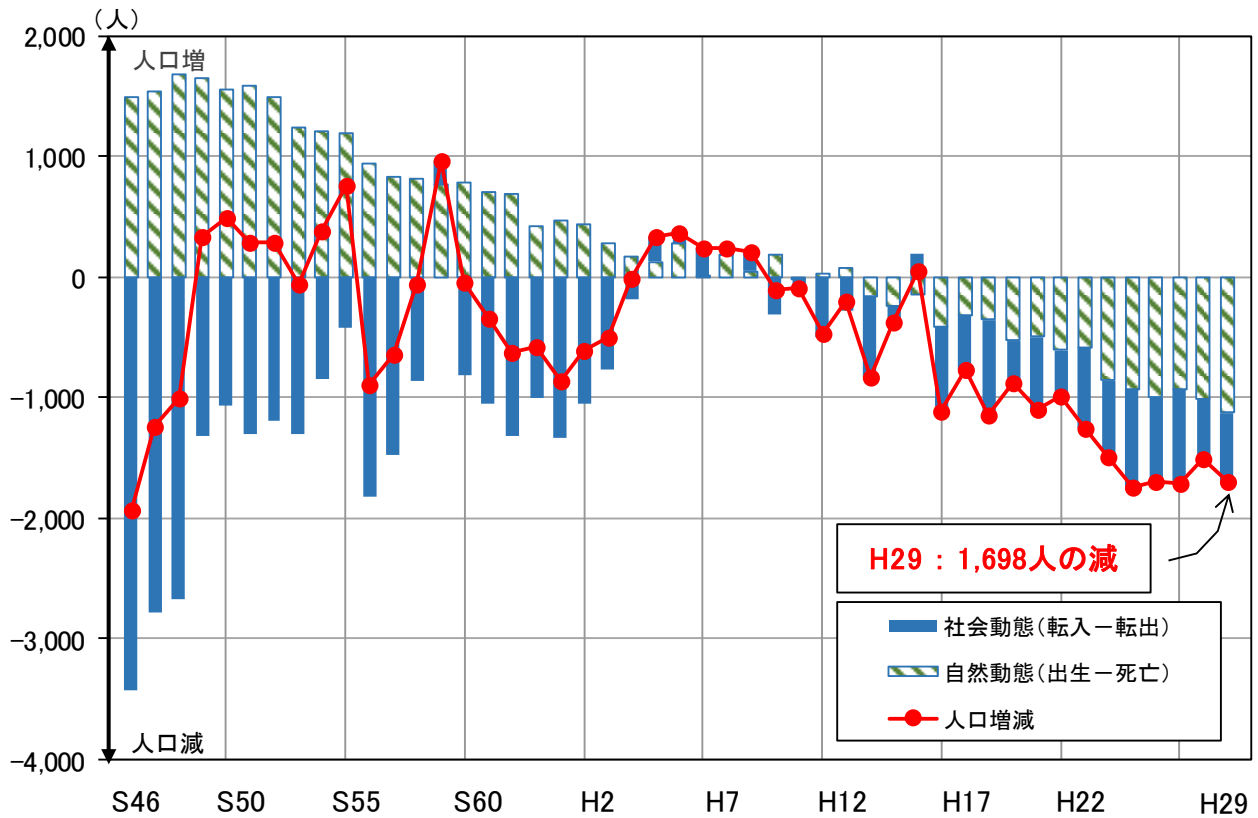
② 地域自治区別の人口の状況

地域自治区	国勢調査人口 (人)			参考 H27/S55
	S55	H22	H27	
高田	41,356	30,421	28,930	70%
新道	6,548	9,684	9,993	153%
金谷	11,011	14,332	14,174	129%
春日	9,401	21,187	21,645	230%
諏訪	1,495	1,223	1,176	79%
津有	4,654	5,038	4,876	105%
三郷	1,373	1,374	1,339	98%
和田	5,200	5,840	5,801	112%
高士	2,169	1,561	1,437	66%
直江津	21,953	19,673	19,248	88%
有田	10,399	14,329	14,966	144%
八千浦	4,815	4,281	3,973	83%
保倉	2,773	2,303	2,178	79%
北諏訪	1,589	1,632	1,540	97%
谷浜・桑取	3,106	1,823	1,639	53%

地域自治区	国勢調査人口 (人)			参考 H27/S55
	S55	H22	H27	
安塚	5,937	2,878	2,491	42%
浦川原	4,980	3,769	3,442	69%
大島	3,939	1,927	1,613	41%
牧	4,559	2,322	2,001	44%
柿崎	13,702	10,660	9,837	72%
大潟	10,751	9,950	9,475	88%
頸城	8,232	9,499	9,267	113%
吉川	7,072	4,764	4,234	60%
中郷	5,957	4,303	3,867	65%
板倉	9,008	7,327	6,831	76%
清里	3,495	3,015	2,780	80%
三和	6,679	5,918	5,625	84%
名立	4,167	2,866	2,609	63%
市全体	216,320	203,899	196,987	91%

出典 総務省「国勢調査」により作成
 ※平成12年以前の数値は、現在の市域に合わせて組み替えたもの

③ 人口動態の推移（S46～H29）



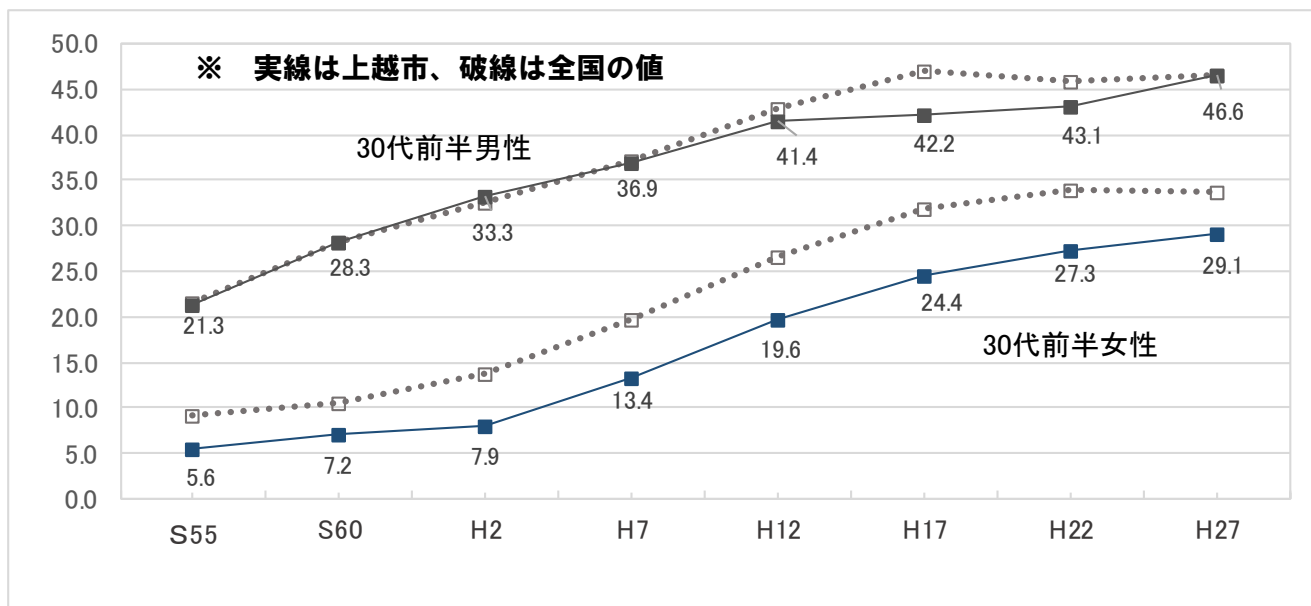
年度	各年度の人口動態							推計人口	
	出生 ①	死亡 ②	自然動態 ③=①-②	転入 ④	転出 ⑤	社会動態 ⑥=④-⑤	人口増減 ⑦=③+⑥		
近年の 推移	H23	1,659	2,237	△ 578	4,409	5,080	△ 671	△ 1,249	202,650
	H24	1,545	2,401	△ 856	4,307	4,948	△ 641	△ 1,497	201,153
	H25	1,601	2,525	△ 924	4,194	5,013	△ 819	△ 1,743	199,410
	H26	1,418	2,419	△ 1,001	4,242	4,943	△ 701	△ 1,702	197,708
	H27	1,521	2,449	△ 928	4,154	4,934	△ 780	△ 1,708	196,000
	H28	1,427	2,431	△ 1,004	4,333	4,841	△ 508	△ 1,512	194,488
	H29	1,347	2,469	△ 1,122	4,225	4,801	△ 576	△ 1,698	192,790

出典 新潟県人口移動調査結果報告により作成

※平成12年以前の数値は、現在の市域に合わせて組み替えたもの

※各年度の人口動態データの対象期間は、前年10月から当年9月までのもの

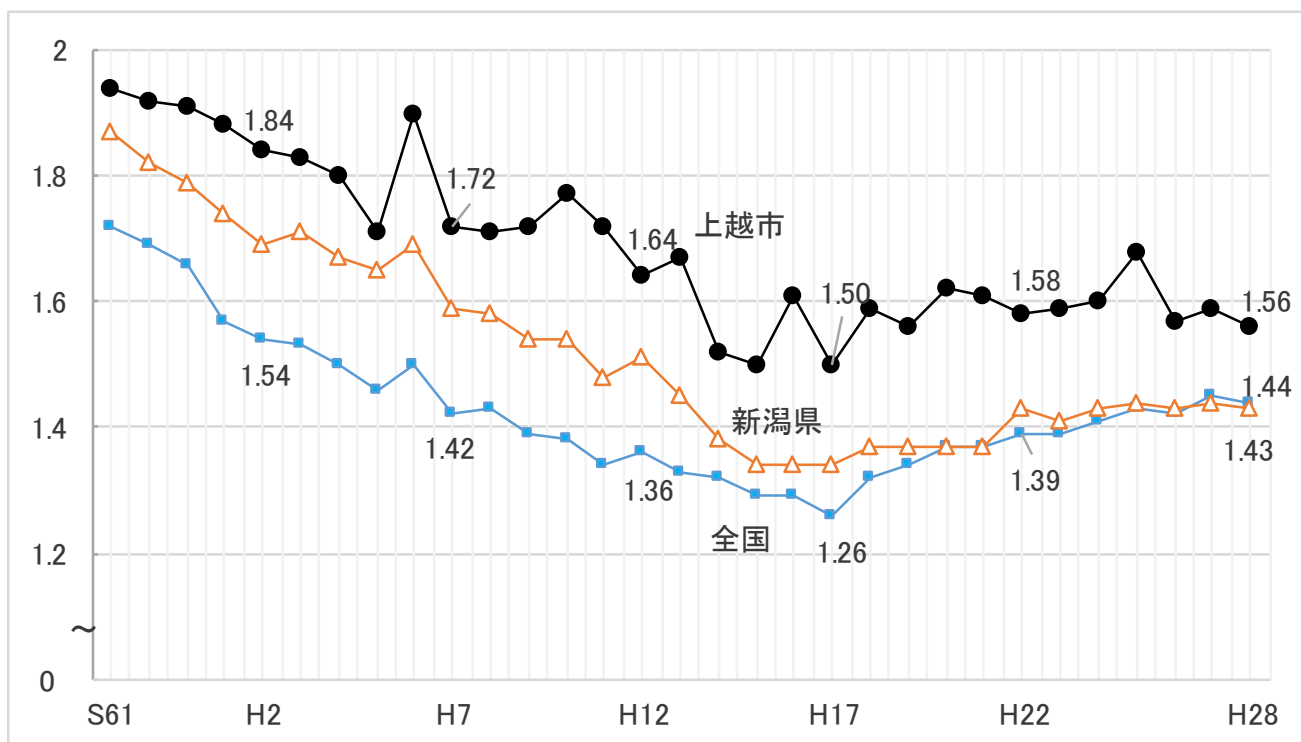
④ 自然動態(未婚率)の推移



出典 総務省「国勢調査」により作成

※平成12年以前の数値は、現在の市域に合わせて組み替えたもの

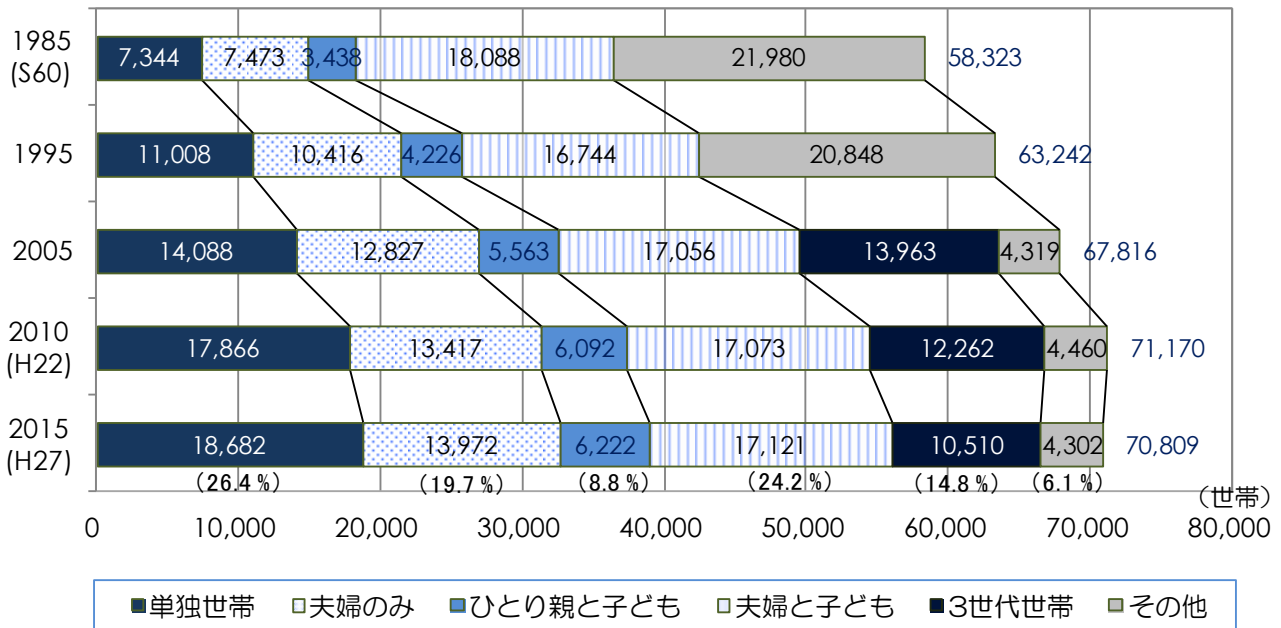
⑤ 自然動態(合計特殊出生率)の推移



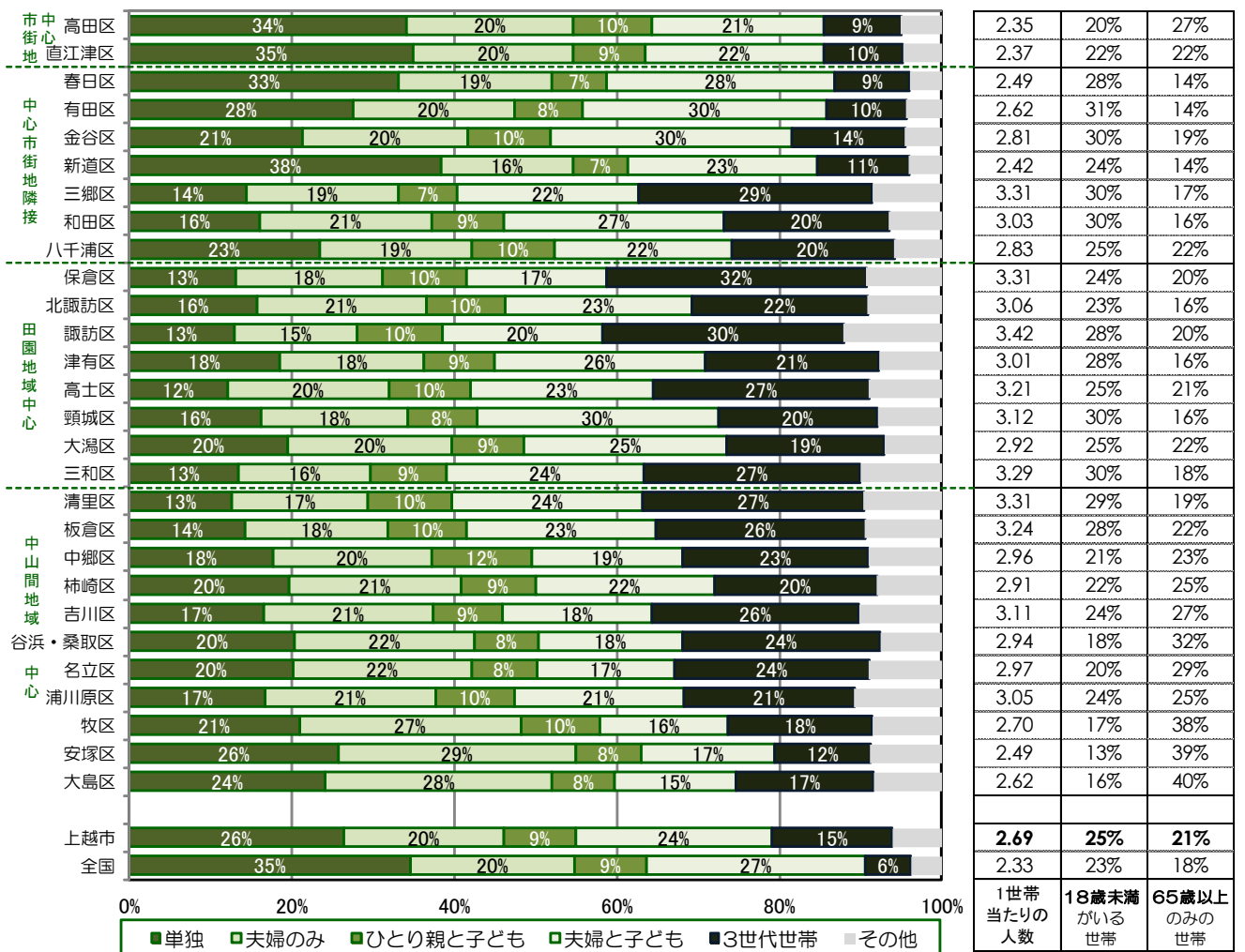
出典 新潟県「人口動態統計(確定数)の概況」により作成

(2) 世帯構成

① 世帯構成の推移 (S60~H27)



② 地域自治区別の世帯構成 (H27)



出典 総務省「国勢調査」を基に上越市創造行政研究所作成

2 暮らしの実感 ～市民の声アンケート報告～

(1) 調査概要

目的

市民生活の実態や実感、市の各政策分野の取組に対する満足度・重要度を定量的に把握するとともに、平成 22 年と 26 年に実施したアンケート調査との比較・分析を行い、第 6 次総合計画の後期基本計画の策定や各施策・事業の推進につなげるもの

調査方法など

- ・満 18 歳以上の市民 5,000 人に対して郵送配布・回収により実施
- ・回収数 2,168 人 (43.36%)

(2) 調査結果の概要

① 生活実態・実感

現在の生活実態や生活実感について伺いました。実感の高い項目(全 27 項目中)の上位は次のとおりです。

順位	項目	実感している人の割合
1	自然が豊かである	90.4%
2	治安がよい	88.6%
3	海や山の幸に恵まれ、食や特産物が豊富である	84.8%

○考察

- ・1 位の「自然が豊かである」は、調査ごと (H22、26) に割合が高まっています。
- ・市の魅力についての自由記述意見では、四季折々の美しい自然や、山・海・大地がもたらす豊かな「食」を上げる意見が多くありました。

② 市の取組に対する満足度・重要度

市の主な取組(全 61 項目)について、現在どれくらい満足しているか(満足度)、今後どれくらい重要か(重要度)を伺いました。回答を点数化した平均スコア(満足から不満までの 5 段階の回答に、「2」～「-2」を付けて平均点を算出。重要度も同様)の上位・下位 3 項目は次のとおりです。

【満足度 上位3】

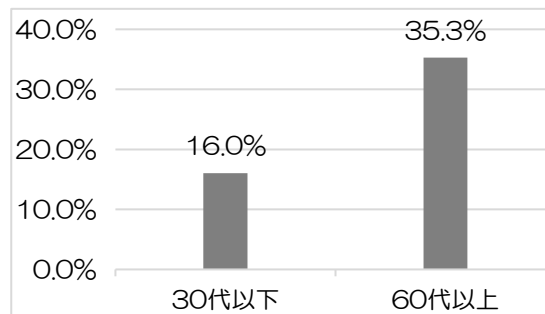
順位	項目	平均スコア
1	水道水の供給	0.80
2	生活排水の処理対策	0.58
3	ごみ減量とリサイクル	0.44

【満足度 下位3】

順位	項目	平均スコア
59	商業の振興	-0.37
60	公共交通の利便性向上	-0.46
61	上越妙高駅の周辺整備	-0.49

○考察

- ・上位3項目は、過去の調査結果（H22・26）と同じでした。水道・排水処理・ごみ処理などのライフライン機能が高い水準で整っていることが満足度につながっているといえます。
- ・下位の「商業の振興」は、市内の卸売・小売業の営業店舗数の減少などが要因であると考えられます。
- ・「公共交通の利便性向上」は、移動に便利な自家用車が普及している中で、電車・バスの運行が市民のニーズに十分に答えられていないことなどが要因と考えられます。
- ・公共交通の利便性が高いと感じる人は、年代で差がありました。（右図のとおり）



- ・「上越妙高駅の周辺整備」は、金沢や富山などに比べて目に見える形での民間開発が遅れていたものの、開発計画が概ね決まり、今後、施設の建設等が着実に進んでいきます。

【重要度 上位3】

順位	項目	平均スコア
1	防災対策	1.45
2	雪対策	1.37
3	医療体制の充実	1.28

【重要度 下位3】

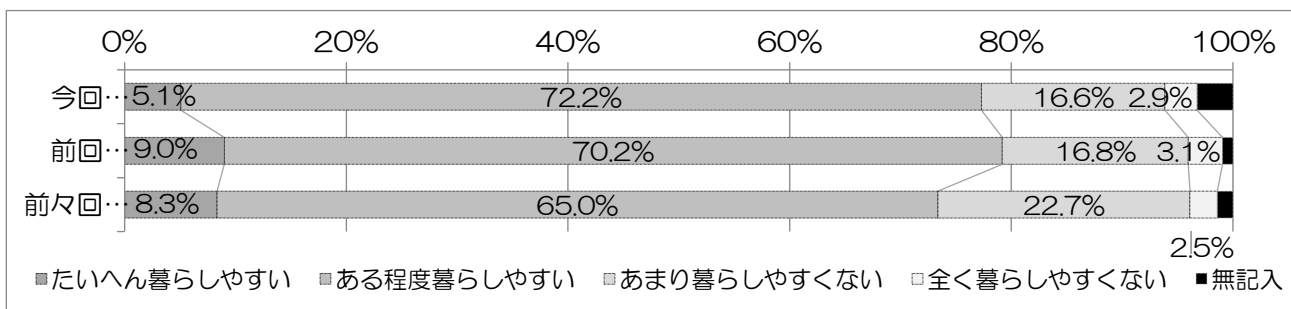
順位	項目	平均スコア
59	芸術、文化活動の推進	0.50
60	スポーツ・レクの振興	0.50
61	国際的な文化交流の推進	0.43

○考察

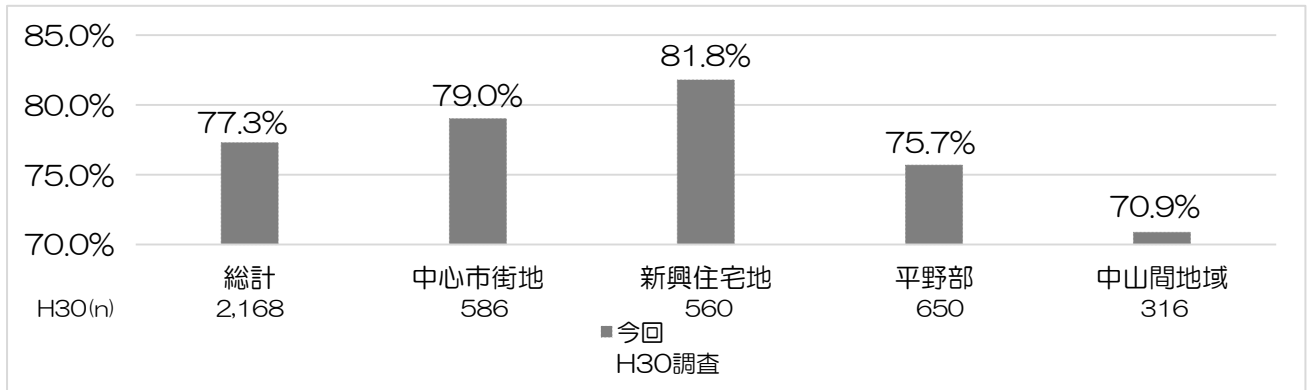
- ・「芸術・文化」や「スポーツ・レク」、「国際交流」は、当市の長い歴史の中で多様な功績・活動が受け継がれているものの、下位となっています。その一方で、市民の皆さんの生命や安全・安心との結び付きの強い「防災対策」や「雪対策」等の項目が上位となっています。
- ・上位3項目は、前回の調査（H26）と同じであり、自由記述意見として、「防災対策」では水害対策や避難場所の充実を、「雪対策」では除雪した雪の排雪対策や高齢者世帯の除雪サポートを、「医療体制の充実」では医師の確保を求める意見などがありました。

③ 暮らしやすさ

「たいへん暮らしやすい」「ある程度暮らしやすい」を合わせて約8割（77.3%）の市民が暮らしやすいと思っています。前回調査から「たいへん暮らしやすい」が減少し、「ある程度暮らしやすい」が増加しました。

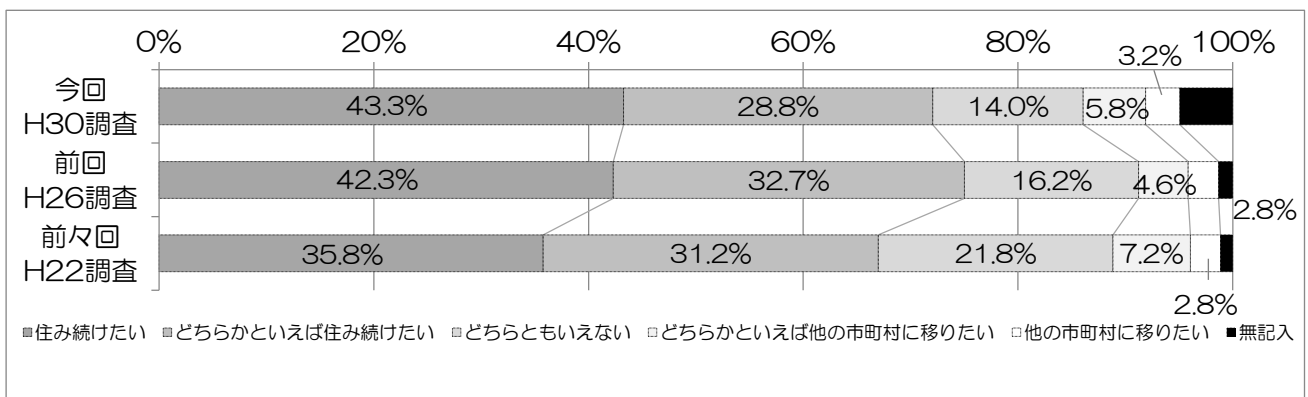


居住地域別集計



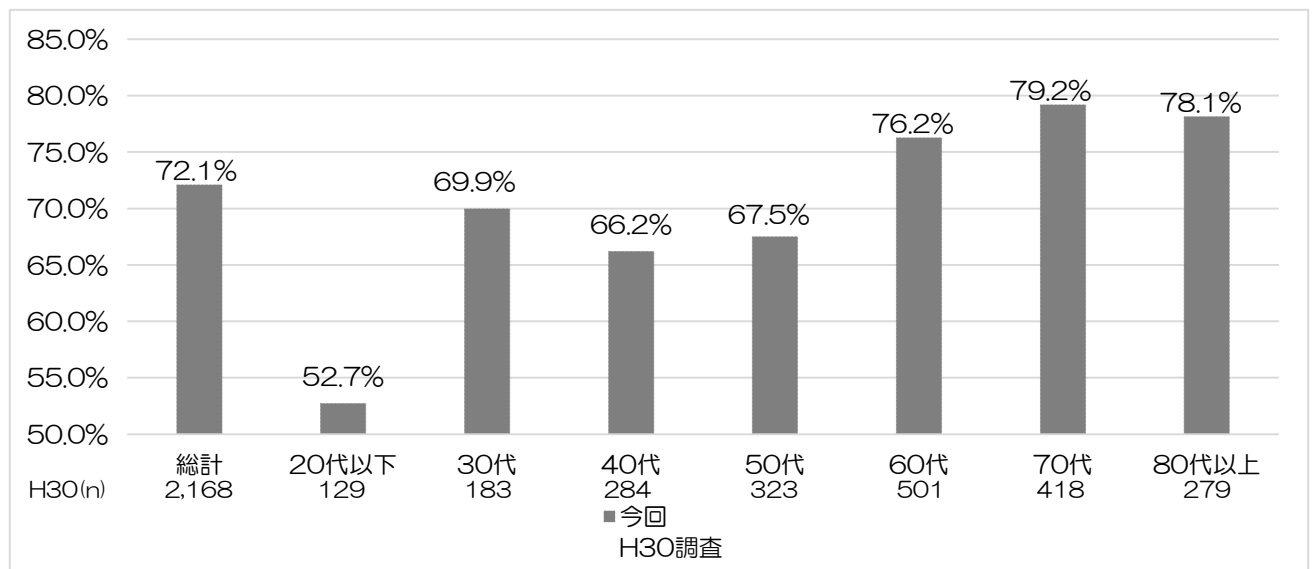
「たいへん暮らしやすい」または「ある程度暮らしやすい」と回答した市民の割合は、中山間地域でやや低くなっています。なお、年齢別の回答では、大きな差異はありません。

④ 上越市に住み続ける意向



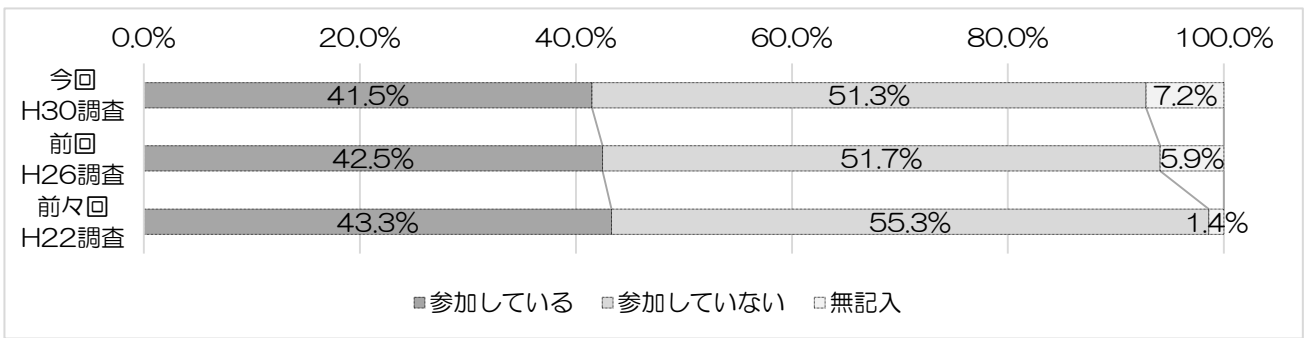
「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」を合わせて7割以上（72.1%）の市民が住み続けたいと思っています。前回調査（75.0%）と比べ、減少したものの、「住み続けたい」と思っている市民は調査ごとに増加しています。

年代別集計



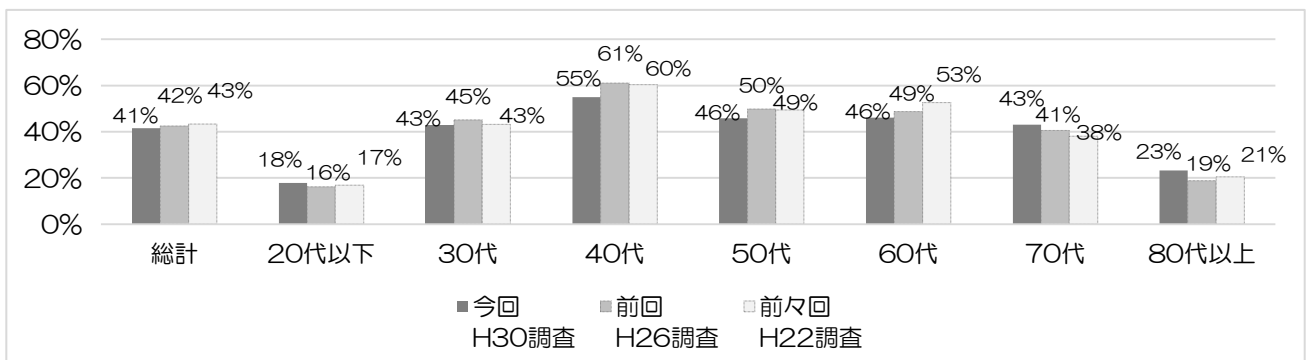
「住み続けたい」または「どちらかといえば住み続けたい」と回答した市民の割合は、年代別では20代以下で低くなっています。なお、居住地域別の回答では、大きな差異はありません。

⑤ 地域活動や市民活動への参加

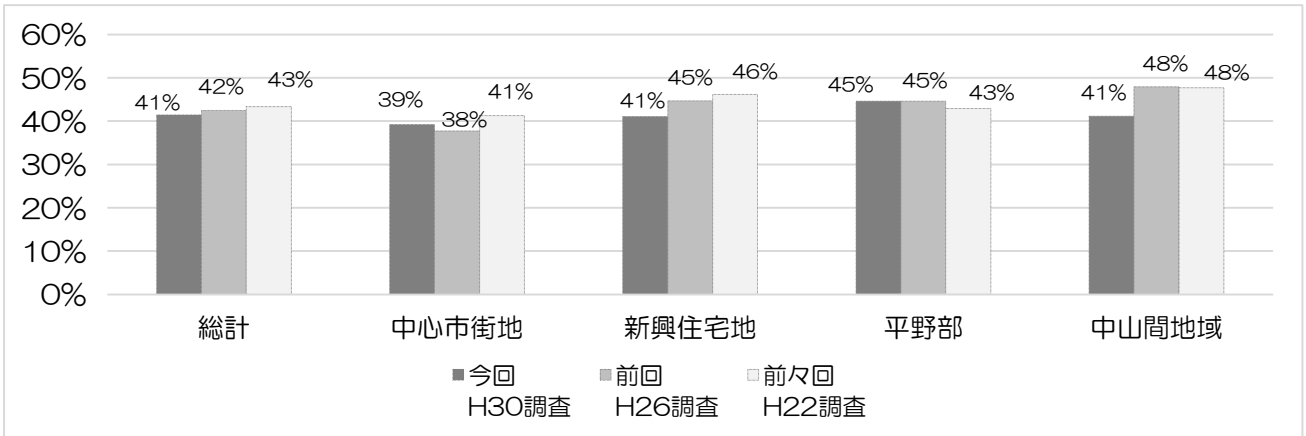


市民活動に参加している市民は約4割です。

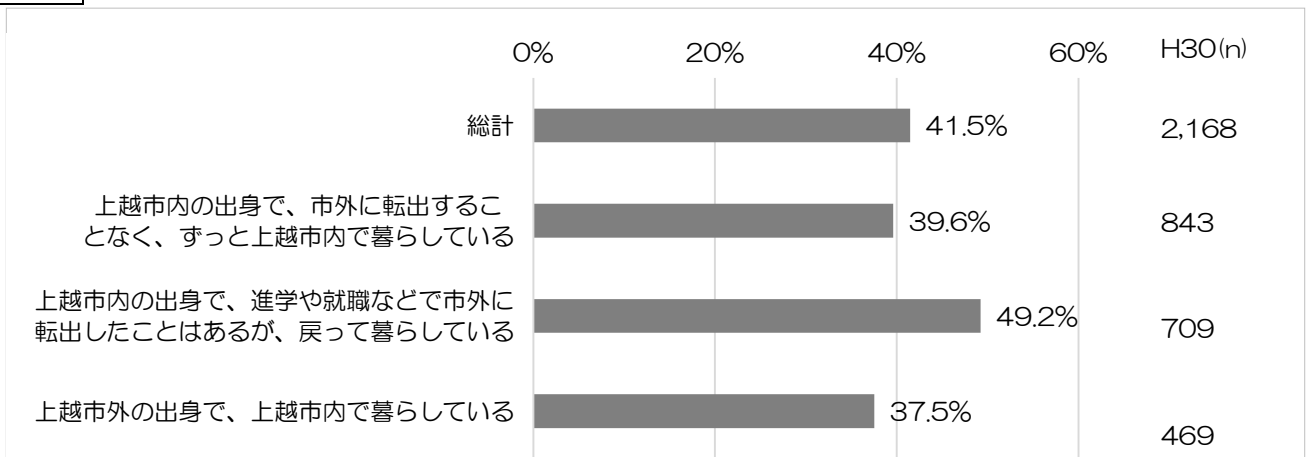
年代別 40代で高く、20代以下と80代以上で低くなっています。



居住地域別 過去調査では中山間地域での参加の割合が高かったものの、今回は低下しました。



出身別 当市の出身で転出後に戻って暮らしている市民は、参加の割合が高くなっています。



3 まちの現状と課題

(1) 市民が主役のまちづくり

- ① 人権尊重・非核平和友好の推進
 - ・情報を発信するメディアの多様化やインターネットの普及により、新たな人権・差別問題が表れている。
- ② 男女共同参画社会の形成
 - ・女性相談について、家族、DV、職場、地域、メンタルヘルスなどの様々な要因が複雑に絡み合うような事案が増加してきている。
- ③ 市民活動の促進
 - ・市民活動団体の登録団体数は増加したものの、新規会員の減少や役員の高齢化が進んでいる。

〔 地域活動や市民活動に参加している市民の割合（上越市市民の声アンケート） 〕
H26 当初：42.5% → H29 時点：41.5%

- ④ 地域自治の推進
 - ・人口減少や高齢化の進展等により、地域自治の担い手の確保が困難な地域が拡大しており、特に中山間地域では、地域における支え合い体制のせい弱化が深刻化している。

(2) 防災・防犯分野

- ① 災害に強い都市構造の構築
 - ・居住者の高齢化や経済的な理由等により、耐震診断件数が減少している。
 - ・人口減少や核家族化等により、空き家が増加傾向にある。
- ② 消防体制の整備
 - ・糸魚川市の大規模火災を受け、市街地の家屋連担地域における大規模火災への対応や、常備消防と消防団の連携の強化が重要になっている。

〔 消防団員数 〕
H26 当初：4,490人 → H29 時点：4,270人

- ③ 地域防災力の維持・向上
 - ・自主防災組織の組織率は上昇しているものの、高齢化や過疎化により防災活動の担い手が不足している。

④ 交通安全対策の推進

- 交通事故発生件数及び死傷者数は減少しているが、当該件数に占める高齢者の割合は増加傾向にある。

（ 交通事故発生件数に占める高齢者加害事故件数の割合
H23：17.1% → H28：21.5% ）

(3) 環境分野

① ごみ減量・リサイクルの推進

- 大手スーパーによるレジ袋の有料化や資源物の店頭回収、企業による環境イベントなど企業のCSR（企業の社会的責任）の取組が増加した。
- 市民のごみ排出量も、リサイクル意識の向上により減少傾向にある。

② 自然環境の保全

- 特定外来生物の生息生育エリアが拡大しつつあるほか、大型野生動物が市街地近郊へ出没する頻度が年々高くなってきており、イノシシの頭数の急増による水稲被害が拡大している。

（ イノシシによる水稲の被害面積
H26 当初：3.0ha/年 → H29 時点：25ha/年 ）

③ 環境学習の推進

- 環境イベントや講座等への参加者数は増加しており、各地域で環境保全活動が展開されるなど、環境に対する意識が高まっている。
- 新興住宅地やマンション、アパートの集合住宅では、環境に対する意識やごみの分別意識が低い傾向にある。

（ 全市クリーン活動参加者数
H26 当初：58,182人/年 → H29 時点 61,221人 ）

(4) 健康福祉分野

- ① 心と体の健康の増進
 - ・市民健診の受診率が低く、脳血管疾患等の原因となる高血圧や糖尿病の人の割合が増加傾向にある。
- ② 地域医療体制の充実
 - ・医師不足により、市内の急性期病院では休床する事態も生じており、医師不足や医師の高齢化が進んでいる。
- ③ 高齢者福祉の推進
 - ・老人クラブの会員数や高齢者の趣味講座の受講者は減少傾向にある。
 - ・介護サービスを利用していないひとり暮らし高齢者などの孤立死が生じている。
- ④ 子育てに関する負担や不安の軽減
 - ・少子化の進行や核家族、ひとり親世帯の増加、ライフスタイル・価値観の多様化など、子育て環境が変化しており、児童虐待やDVの相談が増加している。

(5) 産業・経済分野

- ① ものづくり産業・商業の振興
 - ・景気の回復傾向はあるものの、小規模事業者を中心に景気回復を実感できない状況もあり、製造業等では人手不足が顕在化している。
- ② 新産業・ビジネス機会の創出
 - ・経営者の高齢化や後継者不足による廃業が増加傾向にあり、市内の民間活力が低下するおそれがある。

（ 上越市事業承継意向調査（H27.10）
事業承継を検討していない中小企業者（54.4%） ）

- ③ 就労支援の充実
 - ・将来にわたって労働力不足が懸念されており、生産工程の機械化・自動化のほか、外国人や女性等による新たな労働力の確保が急務である。
 - ・若手社員の早期離職率も高い。

④ 観光の振興

- 冬期間にオーストラリアから妙高市へ訪れる外国人観光客を中心に、上越地区の外国人宿泊者数は増加している一方、当市の観光入込客数は減少傾向である。
- 新水族博物館の開館や総合博物館のリニューアルに伴う、観光客の市内周遊環境の整備が課題である。

(6) 農林水産分野

① 農業の振興

- 農業者の高齢化が進み、担い手・後継者が不足しているほか、園芸の導入や6次産業化が低い状態にあり、水稻単一経営からの脱却が遅れている。
- 農地の集積・集約化により生産コストが削減されるとともに、多様な用途別品種が作付され、幅広い実需に対応できる基盤が整ってきている。

（ 認定農業者等の担い手への農地集積率
H26 当初：59.7% → H29 時点：68.8% ）

② 中山間地域の振興

- 全国的に若い世代を中心に、都市部から中山間地域の農村へ移住しようとする「田園回帰」の意識の高まりが見られ、当市においても移住相談件数が増加している。
- 地域の支え合い体制のせい弱化により、集落活動の維持が困難になってきている。
- 有害鳥獣による農作物被害の拡大による農地の荒廃が懸念される。

（ 移住希望者からの相談対応件数
H26 当初：67件/年 → H29 時点：128件/年 ）

③ 農・食を通じた生きる力の向上

- 学校給食での地場産野菜の使用率が増加しているとともに、農産物直売所の販売額も伸びている。
- 食育に関心を持つ市民の割合は高まっていない。

(7) 教育・文化分野

- ① 学校教育環境の整備
 - ・児童・生徒数の減少により学校の小規模化が進み、複式学級が常態化する傾向が進行している。
 - ・児童生徒の問題行動や家庭問題が複雑化・多様化している。
- ② 学びを通じた人づくり、地域づくりの推進
 - ・社会の情報化や多様化により、市民の学習の興味・関心も多様なものになっている。
- ③ スポーツ活動の推進
 - ・東京オリンピック・パラリンピックに向けた事前合宿招致活動や講演会等により、スポーツへの関心が高まっている。
 - ・(仮称)上越市体操アリーナや県立武道館の整備など、競技力向上等の基盤づくりが進んでいる。
- ④ 文化活動の振興
 - ・文化芸術活動や文化財等の保存・継承活動を担う人の高齢化や後継者不足が課題となっている。

(8) 都市基盤分野

- ① インフラ整備の最適化
 - ・将来の人口減少や少子高齢化による需要変化をしっかりと予測し、公営住宅の計画的な修繕や、都市計画道路の整備を進める必要がある。
 - ・老朽化が進み損傷が著しい橋梁も多くなっており、修繕費が増加している。

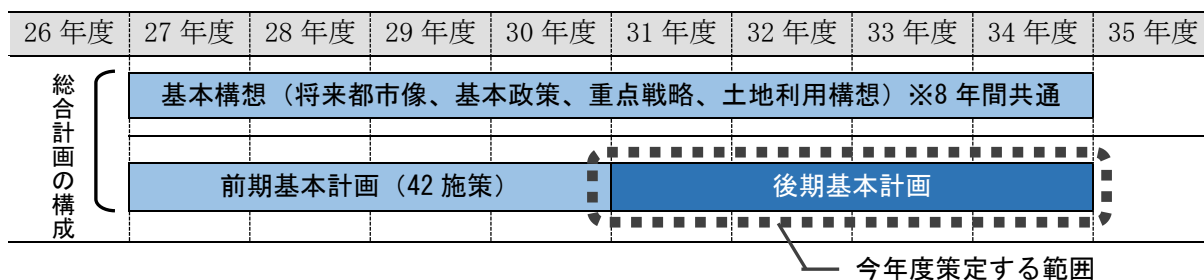
{	市道橋の予防保全型の修繕工事の完了数（累計） H26 当初：15 橋 → H29 時点：40 橋 ※上越市が管理する橋梁は、平成 29 年 12 月現在で 1150 橋	}
---	--	---
- ② 機能的・効率的な交通ネットワークの確立
 - ・免許返納者数の増加など移動手段を持たない高齢者の対応として、公共交通の役割が高まっている。
 - ・鉄道事業者は厳しい経営状況にあり、利便性の向上や交流人口の拡大による利用者の増加が課題となっている。
- ③ 土地利用政策の推進
 - ・高田のまちなかは、空き家・空き地・駐車場が約 2 割を占めており、立地適正化計画等に基づく、まちなかの空洞化への対応や魅力向上が課題である。
 - ・上越妙高駅周辺の商業地域では概ね用途が決まり、開発が本格化してきている。
- ④ 地域の個性をいかした空間形成
 - ・景観形成に熱心に取り組む地域や市民団体がある一方で、地域によって温度差があるとともに、活動をする人の高齢化が進んでいる。

4 第6次総合計画の見直し ～後期基本計画の策定～

目的

平成31年度から34年度までの4年間の施策を定めた後期基本計画を策定し、総合計画の一層の推進を図ることで、将来都市像「すこやかなまち～人と地域が輝く上越～」の実現を目指すもの

【計画の全体期間】



後期基本計画の策定スケジュール

年月	主な取組	内容		
		総合計画審議会	市民意見等	その他
平成30年 1月～3月	○市民意見の把握		○市民の声アンケート実施	
4月 ～6月	○前期計画の評価検証 ・現状と課題	○第1回審議会 (5月)	○市民の声アンケート結果の公表	○市議会に説明 ①
7月	○市民意見の把握 ○計画骨子案の検討		○まちづくり市民意見交換会(5会場)	
8月	○計画骨子案の確定	○第2回審議会		
9月	○計画案の検討	○第3回審議会		○市議会に説明 ②
10月 ～12月	○計画案の市民意見聴取 ○計画の議決(12月)	○第4回審議会	○市民説明会(10月) ○パブリックコメント実施(10月)	○議会定例会 (12月)
平成31年 1月～3月	○計画の公表(3月) ・全戸に概要版を配布			

本日の意見交換会では、市民の皆さんの生活の実態や実感、市の現状・課題を踏まえ、まちの魅力向上や課題解決に向けてご意見をいただき、今後の計画の策定に反映させていただきます。

本日は、ご参加いただき、誠にありがとうございました。